

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第17期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 ジェイリース株式会社

【英訳名】 J-LEASE CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼会長 中島 拓

【本店の所在の場所】 大分県大分市都町一丁目3番19号 大分中央ビル7階

【電話番号】 097-534-2277(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務兼執行役員経営企画本部長 中島 重治

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号 新宿スクエアタワー8階

【電話番号】 03-5909-1241(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務兼執行役員経営企画本部長 中島 重治

【縦覧に供する場所】 ジェイリース株式会社 埼玉支店
(埼玉県さいたま市大宮区土手町一丁目2番地 JA共済埼玉ビル2階)
ジェイリース株式会社 千葉支店
(千葉県船橋市湊町一丁目3番1号 MY船橋ビル8階)
ジェイリース株式会社 東京本社
(東京都新宿区西新宿六丁目22番1号 新宿スクエアタワー8階)
ジェイリース株式会社 横浜支店
(神奈川県横浜市西区南幸二丁目18番1号 TSUTSUI横浜ビル6階)
ジェイリース株式会社 名古屋支店
(愛知県名古屋市中区錦二丁目14番21号 円山ニッセイビル9階)
ジェイリース株式会社 大阪支店
(大阪府大阪市西区土佐堀一丁目4番11号 金鳥土佐堀ビル3階)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第2四半期 連結累計期間	第17期 第2四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	2,854,635	3,219,275	6,082,609
経常利益又は経常損失() (千円)	229,649	66,357	146,364
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失() (千円)	196,299	31,218	149,938
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	192,844	31,219	145,986
純資産額 (千円)	578,588	657,472	625,799
総資産額 (千円)	5,711,461	7,565,374	6,766,301
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失() (円)	22.36	3.55	17.07
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	3.48	-
自己資本比率 (%)	10.1	8.7	9.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	551,497	396,403	763,982
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	66,651	90,452	209,739
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	417,049	557,947	1,073,842
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	595,615	967,928	896,836

回次	第16期 第2四半期 連結会計期間	第17期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	23.03	1.27

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第16期第2四半期連結累計期間、第16期における潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。
4. 第16期第2四半期連結累計期間、第16期第2四半期連結会計期間及び第16期連結会計年度の関連する主要な経営指標等について誤謬の訂正による遡及処理の内容を反映させた数値を記載しております。また、過年度の決算訂正を行い、2019年11月14日に訂正報告書を提出しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（その他）

当第2四半期連結会計期間において、医療費関連サービス等の展開を図るため、JLM株式会社を新規設立しております。

この結果、2019年9月30日現在では、当社グループは、当社、子会社2社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。なお、過年度の決算訂正を行っており、遡及処理後の数値で比較分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策等を背景に、雇用・所得環境が引き続き改善傾向にある一方で、通商問題を巡る緊張の増大など、海外経済の動向と政策に関する不確実性は依然として続いております。

当社を取り巻く賃貸不動産業界におきましては、少子高齢化、晩婚化の進行とともに単身世帯が増加傾向にあり、入居者層の変質にあわせた賃貸住宅の供給並びに入居需要は底堅く推移しております。また、2020年4月に施行される改正民法により連帯保証人の保証限度額の設定が義務化されることも追い風となり、当社グループの主要事業である家賃債務保証サービスに対する需要は引き続き好調に推移しております。

このような環境の下、当社グループは、家賃債務保証事業を核とした「生活サポートの総合商社」を目指し、積極的な営業活動を展開し、順調に売上を拡大してまいりました。経費面では、中長期債権の削減を目的とした訴訟の実施に伴い訴訟関連費用が増加した一方で、代位弁済発生抑制や債権管理体制の強化等による貸倒関連費用の抑制、業務効率化等による経費削減に取り組みました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,219,275千円（前年同期比12.8%増）、営業利益は88,937千円（前年同期は営業損失206,854千円）、経常利益は66,357千円（前年同期は経常損失229,649千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は31,218千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失196,299千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

家賃債務保証事業

家賃債務保証事業においては、市場シェアの拡大を目的とした既存店舗による売上拡大及びネットワークの拡充を図るとともに、事業者向けプラン「J-AKINAI」の拡販にも注力してまいりました。売上拡大に伴う代位弁済立替金の増加により訴訟関連費用が増加する一方、債権管理体制の強化に取り組み、貸倒関連費用の増加抑制と、引き続き業務集約化及び効率化等により経費削減を行いました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の家賃債務保証事業の実績は、当社の保証を取り扱う不動産会社との協定件数は16千件（前年同期比11.4%増）、申込件数は87千件（前年同期比3.9%増）、前受保証料を含む保証料受取額は2,710,413千円（前年同期比13.9%増）となりました。

業績面においては、売上高は3,158,957千円（前年同期比13.5%増）、営業利益は101,178千円（前年同期は営業損失203,933千円）となりました。

不動産仲介事業

不動産仲介事業においては、引き続き増加が見込まれる海外からの外国人入居需要に対しての物件確保と集客に努め、賃貸仲介及びマンションの運営を拡大いたしました。海外からの売買仲介が縮小いたしました。これらの影響も踏まえ、経費削減に取り組みました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の不動産仲介事業の売上高は58,083千円（前年同期比25.1%減）、営業利益は1,729千円（前年同期は営業損失2,920千円）となりました。

その他

その他については、前期より開始しております医療費関連サービス等で構成されており、売上高は6,853千円、営業損失は14,191千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末比799,073千円増加し7,565,374千円となりました。これは主に、代位弁済立替金の増加686,851千円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末比767,399千円増加し6,907,901千円となりました。これは主に、短期借入金の増加600,000千円によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末比31,673千円増加し657,472千円となりました。これは主に、利益剰余金の増加31,218千円によるものであります。

これらにより、自己資本比率は前連結会計年度末比0.6ポイント減少し8.7%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末比71,091千円増加し967,928千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による支出は、396,403千円（前年同期は551,497千円の支出）となりました。主な増加要因は、売上債権の減少242,757千円、貸倒引当金の増加236,639千円等によるものであります。主な減少要因は、代位弁済立替金の増加689,461千円、収納代行立替金の増加243,983千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による支出は、90,452千円（前年同期は66,651千円の支出）となりました。主な要因は、リース資産等の有形固定資産の取得による支出72,034千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による収入は、557,947千円（前年同期は417,049千円の収入）となりました。主な要因は、短期借入金の増加600,000千円等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	27,200,000
計	27,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,800,000	8,800,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	8,800,000	8,800,000		

(注) 提出日現在発行数には、2019年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日 (注)	4,800	8,800,000	151	713,323	151	288,323

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
JLホールディングス株式会社	大分県大分市都町三丁目7番23号 タクセイビル5F	2,140	24.32
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	485	5.52
中島 拓	大分県大分市	367	4.17
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町一丁目4番地	325	3.69
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	268	3.05
ジェイリース従業員持株会	大分県大分市都町一丁目3番19号 大分中央ビル7F	225	2.56
株式会社豊和銀行	大分県大分市王子中町4番10号	160	1.82
株式会社大分銀行	大分県大分市府内町三丁目4番1号	160	1.82
阿部 兼三	大分県大分市	120	1.37
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	98	1.12
計		4,351	49.44

(注) 1. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)および日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は、信託業務に係るものであります。

2. 2019年8月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、レオス・キャピタルワークス株式会社が2018年8月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
レオス・キャピタルワークス 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目11番1号	480	5.47

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,798,100	87,981	-
単元未満株式	普通株式 1,900	-	-
発行済株式総数	8,800,000	-	-
総株主の議決権	-	87,981	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	896,836	967,928
未収保証料	691,770	438,193
未収手数料	27,167	31,957
代位弁済立替金	4,340,325	5,027,176
収納代行立替金	546,962	790,945
貯蔵品	12,749	12,140
その他	246,228	213,466
貸倒引当金	1,476,000	1,704,000
流動資産合計	5,286,041	5,777,808
固定資産		
有形固定資産	97,265	295,287
無形固定資産		
その他	288,129	317,985
無形固定資産合計	288,129	317,985
投資その他の資産		
繰延税金資産	926,506	1,014,461
その他	232,424	232,537
貸倒引当金	64,066	72,706
投資その他の資産合計	1,094,864	1,174,292
固定資産合計	1,480,259	1,787,565
資産合計	6,766,301	7,565,374

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	2,600,000	3,200,000
1年内返済予定の長期借入金	60,048	60,048
リース債務	19,063	39,209
収納代行未払金	831,461	850,342
未払金	368,094	318,109
未払法人税等	143,237	139,684
前受金	1,515,076	1,588,117
賞与引当金	88,254	96,550
その他	227,354	249,224
流動負債合計	5,852,590	6,541,286
固定負債		
長期借入金	179,904	149,880
リース債務	8,650	137,948
役員退職慰労引当金	34,127	23,923
長期未払金	16,846	8,090
資産除去債務	47,873	45,834
その他	510	937
固定負債合計	287,911	366,614
負債合計	6,140,501	6,907,901
純資産の部		
株主資本		
資本金	713,096	713,323
資本剰余金	288,096	288,323
利益剰余金	375,343	344,125
自己株式	49	49
株主資本合計	625,799	657,472
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	-	0
その他の包括利益累計額合計	-	0
純資産合計	625,799	657,472
負債純資産合計	6,766,301	7,565,374

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	2,854,635	3,219,275
売上原価	624,862	716,088
売上総利益	2,229,773	2,503,187
販売費及び一般管理費	1 2,436,628	1 2,414,249
営業利益又は営業損失()	206,854	88,937
営業外収益		
受取利息	3	5
受取配当金	10	10
受取保険金	-	917
償却債権取立益	337	203
その他	639	227
営業外収益合計	990	1,363
営業外費用		
支払利息	8,729	12,507
債権譲渡損	14,057	9,908
その他	998	1,528
営業外費用合計	23,785	23,943
経常利益又は経常損失()	229,649	66,357
特別利益		
資産除去債務履行差額	-	2,342
固定資産売却益	-	21
退職給付制度終了益	20,768	-
特別利益合計	20,768	2,364
特別損失		
減損損失	-	2,664
固定資産除却損	-	8
特別損失合計	-	2,673
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	208,880	66,048
法人税、住民税及び事業税	104,738	122,784
法人税等調整額	117,319	87,955
法人税等合計	12,580	34,829
四半期純利益又は四半期純損失()	196,299	31,218
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	196,299	31,218

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	196,299	31,218
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	46	0
退職給付に係る調整額	3,502	-
その他の包括利益合計	3,455	0
四半期包括利益	192,844	31,219
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	192,844	31,219

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	208,880	66,048
減価償却費	46,182	49,362
減損損失	-	2,664
貸倒引当金の増減額(は減少)	545,799	236,639
受取利息及び受取配当金	13	15
支払利息	8,729	12,507
売上債権の増減額(は増加)	214,248	242,757
固定資産除却損	-	8
固定資産売却損益(は益)	-	21
代位弁済立替金の増減額(は増加)	795,364	689,461
収納代行立替金の増減額(は増加)	197,758	243,983
たな卸資産の増減額(は増加)	1,239	609
前受金の増減額(は減少)	5,498	73,040
賞与引当金の増減額(は減少)	1,106	8,296
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	55,992	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	12,314	10,203
収納代行未払金の増減額(は減少)	56,115	18,881
その他	55,102	27,755
小計	446,507	260,624
利息及び配当金の受取額	13	15
利息の支払額	8,925	12,765
法人税等の支払額	96,078	123,028
営業活動によるキャッシュ・フロー	551,497	396,403
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	20,303	72,034
有形固定資産の売却による収入	-	21
無形固定資産の取得による支出	25,132	26,609
その他	21,216	8,169
投資活動によるキャッシュ・フロー	66,651	90,452
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	530,000	600,000
長期借入金の返済による支出	33,320	30,024
社債の償還による支出	30,000	-
株式の発行による収入	394	453
配当金の支払額	39,448	-
その他	10,576	12,482
財務活動によるキャッシュ・フロー	417,049	557,947
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	201,100	71,091
現金及び現金同等物の期首残高	796,715	896,836
現金及び現金同等物の四半期末残高	595,615	967,928

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給料及び手当	723,233千円	730,141千円
賞与引当金繰入額	80,506 "	96,550 "
退職給付費用	9,065 "	8,599 "
役員退職慰労引当金繰入額	1,437 "	1,125 "
貸倒引当金繰入額	570,539 "	458,881 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額は同額であります。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	39	4.50	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

(注) 配当金は、株主総会決議に基づく手続きによりすでに支出しておりますので、利益剰余金は本配当金を控除して算定しております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	家賃債務 保証事業	不動産仲介事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,783,730	70,905	2,854,635	-	2,854,635	-	2,854,635
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	6,623	6,623	-	6,623	6,623	-
計	2,783,730	77,528	2,861,259	-	2,861,259	6,623	2,854,635
セグメント損失()	203,933	2,920	206,854	-	206,854	-	206,854

(注) 1. 売上高の調整額 6,623千円については、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失()と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	家賃債務 保証事業	不動産仲介事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,158,957	53,464	3,212,422	6,853	3,219,275	-	3,219,275
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	4,618	4,618	-	4,618	4,618	-
計	3,158,957	58,083	3,217,041	6,853	3,223,894	4,618	3,219,275
セグメント利益又は 損失()	101,178	1,729	102,907	14,191	88,716	221	88,937

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療費関連事業及び不動産賃貸事業を含んでおります。

2. 売上高の調整額 4,618千円については、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失()と調整を行っておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	22円36銭	3円55銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	196,299	31,218
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	196,299	31,218
普通株式の期中平均株式数(株)	8,779,939	8,795,673
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益(千円)	-	3円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	226,326	184,049
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

ジェイリース株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堀 川 紀 之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 川 琢 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているジェイリース株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ジェイリース株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。